

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 池 睦美  
学位 位 博士 (保健学)  
学位記番号 新大院博 (保) 第46号  
学位授与の日付 令和 4年 9月20日  
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当  
博士論文名 維持血液透析患者の睡眠と自己管理行動の関連性に関する研究

論文審査委員 主査 教授 内山 美枝子  
副査 教授 中村 勝  
副査 准教授 清水 詩子

博士論文の要旨

本研究の目的は、透析患者の睡眠の特徴を主観的、客観的に明らかにし、睡眠と自己管理行動との関連性を明らかにすることである。

論文は5章から構成され、主な成果は第2章以降にまとめられている。

第1章では、研究の着想に至る学術的背景と研究の概要や目的が述べられている。適切な睡眠は心身の疲労回復に役立つが、量的不足や質的悪化は日常生活への支障や生活習慣病のリスクを高める。透析患者は睡眠に関する訴えが多く、睡眠障害の実態が十分に明らかにされていないため重要課題であると述べられている。

第2章では、透析患者の睡眠調査として目的、対象、方法、結果、考察が述べられている。目的は睡眠の特徴を明らかにすることであり、対象は透析患者41名、調査期間は2015年12月～2017年8月、新潟大学医学部倫理審査委員会（承認番号：2345）、協力病院の倫理審査小委員会（承認番号：H27004）の承認を受けている。方法はピッツバーグ睡眠質問票（以下、PSQI）を使用し主観的睡眠評価、アクチグラフを使用し客観的睡眠状態を調査している。結果、PSQI 総合得点は平均6.80、半数以上の56%がcut off point 5.5を超えていた。アクチグラフでは総睡眠時間の平均が277.35分（4時間37分）と短く、入眠潜時が62分、覚醒時間が64分といずれも長く、5分以上の覚醒回数は3.79回と多かった。睡眠薬服用者は26.8%と多いが、服用有無の比較では「有」は睡眠の主観的評価が不良で入眠障害を強く自覚しており、「無」は客観的評価の覚醒時間が長く、5分以上の覚醒回数に有意な差がみられた。PSQI 総合得点と「家族構成」「体重増加率」に相関がみられ、同居者がいる者や体重増加率の低い者には睡眠評価が良い傾向がみられた。考察では対象の主観的睡眠評価は一般人に比べて悪く、客観的評価から重度の入眠障害、中途覚醒が存在し、総睡眠時間が短く、睡眠薬の効果はあまりみられないとしている。

第3章では、透析患者の自己管理行動と睡眠として目的、対象、方法、結果、考察が述べられている。目的は既存尺度を活用して自己管理行動を調査し、臨床データと併せて睡眠との関連性を検討することである。対象は第2章と同様、方法は維持透析患者自己管理行動尺度（以下、自己管

理行動尺度) を使用し因子分析を行っている。結果は自己管理行動尺度の総得点は平均 86.28、この総得点と「心胸比」「家族構成」などの変数では相関がみられ、自己管理行動に影響を与える因子分析を進めると自己管理行動尺度の総得点は「PSQI 総合得点」「心胸比」のほか「体重増加」に影響を及ぼしていた。考察では自己管理行動尺度と血液データには相関がみられなかったことから適切な自己管理行動が取れているかどうかは検査データとも照合評価する必要がある。また自己管理行動の指標の1つである体重増加率に影響する因子として PSQI 総合得点が抽出されたことから睡眠が自己管理行動に影響を及ぼすことが示され、透析患者が良質な睡眠をとることは自己管理行動の改善に繋がると述べている。

第4章では、自己管理行動が良好な透析患者の疾病の受容過程と生活の再構築として目的、対象、方法、結果、考察が述べられている。目的は自己管理状態が良好な透析患者の疾病の受容過程とどのように生活を再構築したかを分析することで睡眠と自己管理行動との関連を明らかにすることである。対象は41名の中から体重増加率を低く維持し、自己管理行動尺度の総得点が高い6名を抽出し、方法は半構成的面接による質的分析を行っている。結果は(1)発症からの経過と透析療法に対する思いでは【不安への抵抗】【困難との遭遇】【就労継続による幸福】の3カテゴリー、(2)透析療法の継続のための工夫と自己管理行動では【自己管理による自己の肯定】【現在を感謝】【透析スタッフからの自立】【治療の抑圧】の4カテゴリー、(3)睡眠についての自己管理行動では【質の変化の受容】【睡眠量の調整】の2カテゴリーが抽出された。このことから対象は就労を継続しながらも夜間透析を受けており慢性的な睡眠不足はみられるが、職場での午睡や透析中の仮眠で睡眠量を補い、透析スケジュールに合わせた睡眠時間の捻出により体調管理や生活の再構築に繋がっていた。考察では対象は就労を継続し家族機能と社会的役割を維持していた。このことは自己への肯定的な受け止め、自己管理行動への自信に繋がっていると考えられ、その語りからは透析導入により睡眠の質が変化し、疾病の受容過程の中でも睡眠障害の状態は変化していた。体重増加による呼吸困難、便秘による腹満感、原疾患がもたらす腰痛といった身体的苦痛や副甲状腺機能亢進症による掻痒感、足のイライラ感などが睡眠障害の原因になっていた。また自己管理状態が良好な者でも加齢に伴う睡眠の質の変化や身体機能の低下は感じており、適正体重の変更などに戸惑いながら派生する危機に対応していると述べている。

第5章では、総括として第2章から第4章までの内容を踏まえ、透析患者の睡眠について私見が述べられている。透析患者(対象)の睡眠には入眠障害、中途覚醒がみられ、総睡眠時間が短く、主観的かつ客観的に不良であった。睡眠状態は適正体重を維持する自己管理行動に影響を与えていた。自己管理行動が良好な者は睡眠の質の変化を自覚しながらも睡眠量を確保する時間管理を行っていた。透析療法に携わる医療従事者は患者の睡眠状態や日中の傾眠傾向などを観察し、発症年数の経過に伴って生じてくる諸課題を予測し、危機回避のための介入や良好な睡眠を獲得できる援助を行うことが重要となると述べている。

#### 審査結果の要旨

学位申請論文は、主査1名、副査2名の計3名で審査を行った。

## 1. 保健学における研究の価値と貢献

本論文は、透析患者の睡眠の特徴を主観的・客観的観点から捉え、睡眠と自己管理行動との関連性を考察した点に新規性がある。ピッツバーグ睡眠質問票やアクチグラフから得たデータの分析、血液透析患者自己管理行動尺度やインタビューデータの質的分析も適切に実施している。評価方法と合わせて論文趣旨全体の有効性が認められ、記述内容の客観性・論理性など信頼性においても、いずれも秀でており、保健学（特に看護学分野）に貢献する優れた論文であると判断する。

## 2. 論文構成と内容に関する審査

本論文は、第1章 問題の背景と研究の目的、第2章 透析患者の睡眠調査、第3章 透析患者の自己管理行動と睡眠、第4章 自己管理行動が良好な透析患者の疾病の受容過程と生活の再構築、第5章 総括から構成されており、論文趣旨を把握するために各章の内容は詳細に書かれている。また、以下の点を全て満たしている。

- ・タイトルが、論文の趣旨を捉えており明解で簡潔である。
- ・目的と背景が、明解かつ簡潔に記されている。
- ・理論／方法が、正しく論理的であり、客観的に明解に記述されている。
- ・結果が、正当で、図、写真、表が適切であり、客観的・論理的に記述されている。
- ・考察が、正当で客観的・論理的であり、著者の主張や結論を支持するデータが十分である。
- ・結論が、目的に対応して適切に導かれており、記述が簡潔である。
- ・引用文献が、本文中に現れた順に適切に参照されている。
- ・表が、見やすく、数や表現が適切である。
- ・図、写真が、見やすく、数や表現が適切である。
- ・キャプションが、明解で適切である。
- ・書式が、適切である（誤字脱字がない、文体が統一されている、用語が適切である、など）

よって、論文構成およびその内容は学位論文としての要件を満たすものであると判断する。

## 3. 総括

審査の結果、本論文は博士(保健学)の学位論文として十分な価値を有するものとする。